

イスラームに関する誤解のトップ10（後半）：さらなる俗説

説明：前半の続きとして、俗説を4～10まで検証します。

よりアーイシャ ステイシー

掲載日時 18 May 2015 - 編集日時 18 May 2015

カテゴリ：[記事](#) > [イスラームの信条](#) > [イスラームとは？](#)

4．イスラームは他宗教 信仰に寛容でない。

歴史的にみると、イスラームは常に信教の自由という原則に敬意を示し、それを遵守してきました。クルアーンや預言者ムハンマドの伝承集は、他宗教や不信仰者への寛容を説いています。ムスリムの支配地に住む非ムスリムは、信教の自由だけでなく、独自の裁判所を持つことも許されているのです。

5．イスラームは1400年前に始まったものである。

「イスラーム」の語根（サ ラ マ）は、平安や安全を意味するアラビア語「サラーム」と共通のもので、イスラームとは本質的には神の御心への服従であり、そうした人生によってもたらされる平穏や安心感を包含します。それゆえ歴史を通し、神の御心に従うことによって一神教を実践した者は、それが誰であれムスリムであると見なされます。人類はアダムの創造時からイスラームを実践してきました。神はあらゆる時代において人類を導き、その教えを説くために預言者や使徒たちをそれぞれの民に遣わしてきました。すべての預言者たちによる主要な教えとは、「唯一なる真実の神のみを信じ、崇拝せよ」というものでした。それらの預言者たちはアダムを始め、ノア、アブラハム、モーセ、ダビデ、ソロモン、洗礼者ヨハネ、イエス キリスト（彼ら皆に平安あれ）などが含まれます。神は聖クルアーンの中でこう述べます。

“（ムハンマドよ、）あなた以前にも、われが遣わした使徒には、等しく、「われの外に神はない、だからわれに仕えよ。」と啓示した。”（クルアーン21:25）

しかし、それらの預言者たちの真の教えは失われたか、時代と共に改ざんされてきました。比較的新しいトーラーと福音書でさえ改変されてしまったことから、人を正しい道へと導くことへの信頼性を失ってしまいました。そのためイエス キリストの600年後、神は預言者ムハンマドに最終啓示である聖クルアーンを下すことにより、過去の預言者たちの失われた教えを全人類のために復活させたのです。こうして、すべての人々が神によるこの最後の教えを信じ、従うことが絶対となったのです。全能なる神はクルアーンにおいてこう述べます。

“（ムハンマドよ、）われは、全人類への吉報の伝達者また警告者として、あなたを遣わした。だが人びとの多くは、それが分らない。”（クルアーン34:28）

“イスラーム以外の教えを追求する者は、決して受け入れられない。また来世においては、これらの者は失敗者の類である。”（クルアーン3:85）

6 . ムスリムはイエス キリストを信じない。

ムスリムはすべての預言者たちを敬愛します。そのうちの誰か一人でも否定するのであれば、それはイスラームの教義そのものを否定することになります。言い換えると、ムスリムはアラビア語でイーサーとして知られるイエスを信じ、敬愛し、尊敬します。違いがあるとすれば、ムスリムが彼の役割をクルアーン、そして預言者ムハンマドの伝承集に基づいた理解をするということです。ムスリムはイエスが神であるとは信じませんし、神の子であることや三位一体論も信じていません。

クルアーンでは3章に渡ってイエスの人生、彼の母マリアとその家族のことについて述べられており、それぞれはバイブルでは述べられていないイエスの人生の詳細を明らかにします。ムスリムはイエスが処女マリアから父なくして奇跡的な誕生をしたことを信じますが、彼を神の子であるとしたり、彼を崇拜すべきだとは決して主張しません。またムスリムは、最後の日になるとイエスが再び地上に降臨することも信じます。

7 . クルアーンの著者はムハンマドである。

この主張は、最初に預言者ムハンマドの敵対者によってされるようになりました。彼らはイスラームによって脅威にさらされた自身の私利を守ろうと必死になり、クルアーンが神によるものであることに対して疑念を広めようとしてきました。

クルアーンは23年間に渡り、天使ガブリエルを介して預言者ムハンマドに啓示されました。神はクルアーンの中でそのことについて語ります。

“ われの明白な印が、かれらに読誦されると、信仰しない者はかれらの許に來た真理（クルアーン）に就いて言う。「これは明らかに魔術です。」またかれらは、「かれ（ムハンマド）が、それ（クルアーン）を捏造したのです。」と言う。”（クルアーン46:7-8）

それに加え、預言者ムハンマドは文盲で読み書きができませんでした。神はそのことについてクルアーンでこう述べます。

“ あなたはそれ（が下る）以前は、どんな啓典も読まなかった。またあなたの右手でそれを書き写しもしなかった。”（クルアーン29:48）

クルアーンには驚くべき事実が記載されていることから、預言者ムハンマドがその著者ではなかったということが証明されています。西暦7世紀に生きた人物が、近代になって発見された科学的事実を知り得ることはなかったのです。彼はいかにして雨雲や雹が形成されるのか、または宇宙の膨張について知ることができたのでしょうか？ また彼はいかにして、近代の発明品である超音波装置なくして、胎児の発達における異なる段階を説明することができたのでしょうか？

8 . 三日月はイスラームのシンボルである。

預言者ムハンマドによって率いられたムスリム共同体に、シンボルはありませんでした。キャラバンや軍隊は識別目的に旗を掲げていましたが、通常は黒か緑一色でした。ムスリムは、キリスト教を象徴する十字架や、ユダヤ教を象徴するダビデの星のようなイスラームのシンボルを持ちません。

三日月のシンボルは歴史的にはトルコ人に関連付けられるものであり、彼らの硬貨に刻印されていたものでした。三日月や星は、西暦1453年にトルコ人がコンスタンティノープル（イスタンブール）を征服した際、ムスリム世界に持ち込まれました。彼らは都市の中に既に存在していた旗やシンボルをオスマン帝国の象徴とすることを選びました。それ以来、三日月は多くのムスリム諸国によって導入され、不当にイスラーム信仰のシンボルとされるようになったのです。

9 . ムスリムは月の神を崇拝する。

虚妄の中にある人々は、アッラーのことを古代の月の神の近代的解釈であると見なします。それは断じて事実に基づいてはいません。アッラーとは唯一なる真実の神が持つ御名の一つであり、キリスト教徒やユダヤ教徒を含む、すべてのアラビア語話者によってその名前と言及されます。アッラーは月の崇拝や月の神とは全く関係ないのです。

預言者アブラハム以前のアラブ人の宗教については殆ど情報がありませんが、アラブ人たちが偶像や天体、木々や石を崇拝していたことには確かです。それらの神々の内でも著名なのはマナート、アッ=ラート、アル=ウzzaーなどですが、それらの神々が月の神や月そのものであるとされる根拠は存在しません。

10 . ジハードとは聖戦のことである。

アラビア語で戦争を意味する単語はジハードではありません。「聖戦」という言葉の使用は、キリスト教徒たちによる十字軍の聖戦に元をたどるものです。「ジハード」という単語は、アラビア語で「苦労」や「努力」を意味します。また、それには複数の段階があるとも説明されます。まず第一に、それは神のご満悦を得るための自己との内的奮闘であるとされます。第二に、それは社会的正義と人権に基づいたムスリム社会を構築するための努力であるとされます。そして第三に、軍事的 武力的努力であるとされます。

軍事的努力には、防戦と攻戦が含まれます。防衛ジハードは、ムスリムの土地が侵略され、人々の生命や富が危険に晒されたときに発動します。それはつまり、ムスリムが自己防衛として侵略者と戦うものです。攻撃ジハードにおいては、イスラームがもたらされていながらも、イスラームによる統治の確立に反対する人々が戦いの対象となります。イスラームとは全人類に対する慈悲であり、それは人間や偶像の崇拝から唯一なる真実の神への崇拝へと呼びかけ、また文化 人 国家による抑圧 不正義から平等と正義へと呼びかけるものです。ひとたび人々にイスラームが知れ渡るようになっても、それを受け入れることは強制されず、各々の判断に委ねられます。

この記事のウェブアドレス：

<http://www.islamreligion.com/jp/articles/10654>

Copyright © 2006-2013 www.IslamReligion.com. All rights reserved.